条件づけの理論と応用

科目ナンバリング　EXP-301
選択　　2単位

望月　　要

1. 授業の概要（ねらい）

春学期の『学習心理学I』に引続き、主に実験行動分析学の枠組から、我々ヒトを含む動物の行動変容の法則について、特に重要なテーマについて、その基本概念、古典的な実験の意義、重要な現象について講義する。

2. 授業の到達目標

ヒトを含む動物の行動変容に関する重要なテーマついて、科学的な原理に基づいて記述し、その代表的実験例を説明できる。それらの知識に基づき，日常の諸問題について専門的な問題意識を表明でき，社会の様々な現象との関係を説明できるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

学期末レポート (80 %)，LMS課題へのアクセス状況 (20 %)。

4. 教科書・参考文献

教科書

テキストは使用しない。以下の書籍は理解を深める上で有益であろう。

参考文献

小野浩一 (2016). 『行動の基礎 (改訂版)　培風館
実森正子・中島定彦 (2019).　学習の心理』(第2版)　サイエンス社
眞邉一近 (2019). 『ポテンシャル学習心理学』　サイエンス社
ジェームズ・E. メイザー (2008). 『メイザーの学習と行動 (日本語版第3版)』　二瓶社

5. 準備学修の内容

本シラバスとLMSで配付する授業資料を参考に，次の授業で取り上げる話題について，参考書やwebを活用して，各自，専門用語と概念についてノートに整理してくること。毎回の講義の後，改めてノートを整理し，参考文献を参照して講義内容への理解を深めること。必要に応じて重要な学習事項をLMSで課題として示し，それについて授業中に解説を加える。

6. その他履修上の注意事項

履修希望者が教室定員を上回るなど多数になった場合は，履修者数に制限を設ける場合があるので，初回授業に必ず出席すること。授業資料の配付，必要な連絡はLMSで行なう。履修者は定期的に閲覧すること。尚、授業中の私語には厳しいペナルティを課す。

7. 授業内容

【第1回】　授業方針の説明、関連書籍・文献の紹介
【第2回】　基本強化スケジュール
【第3回】　複雑な強化スケジュール
【第4回】　強化スケジュール下のヒトの行動
【第5回】　定量的行動分析 (1)
【第6回】　定量的行動分析 (2)
【第7回】　“衝動性”とセルフ・コミットメント
【第8回】　複雑な刺激性制御と概念行動
【第9回】　条件性弁別と高次オペラントクラス
【第10回】　オペラント・レスポンデント交互作用 (1)
【第11回】　オペラント・レスポンデント交互作用 (2)
【第12回】　オペラント行動としての言語行動
【第13回】　言語行動と非言語行動の関係
【第14回】　言語行動としての意識: 私的出来事のタクト
【第15回】　まとめ (online)